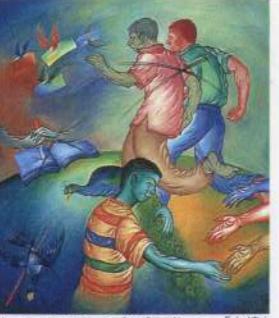


The 1st Fukuoka Asian Art Triennale 1999



岩井成昭 <日本> 「ダイアローグ」
Iwai Shigeaki <Japan> Dialogue



カマル・アハメド <バングラデシュ> 「友情」
Kamal Ahmed <Bangladesh> Friendship



ナヴジョット・アルタフ <インド> 「もうひとつの実践方法—世界をいかに作るか」
Navjot Altaf <India> Modes of Parallel Practice;Ways of World Making



ジュアン・ホイ(莊輝) <中国>
「公元1997年3月26日河南省建六公司洛阳双源热力公司电厂改建工程工作人员合影纪念」
Zhuang Hui <China> The Staff of Shuangyuan Energy Source Company, March 26, 1997

第1回福岡トリエンナーレ参加作家 Participating artists in the 1st Fukuoka Triennale

国・地域名	出品作家 Participating Artists	国・地域名	出品作家 Participating Artists
バングラデシュ (Bangladesh)	カマル・アハメド (Kamal Ahmed) アシコ・カルマカル (Ashoke Karmaker)	マレーシア (Malaysia)	ヌール・アジザン・ラーマン・パaiman (Noor Azizan Rahman Paiman) ウォン・ホイチョン (Wong Hoy Cheong) ファイザル・モハメド・ズルキフリ (Faizal Mohd. Zulkifli)
ブータン (Bhutan)	カルマ・レキ・ドージの共同制作 (Collaboration : Karma , Leki Dorji)	モンゴル (Mongolia)	セルオド・サンツァツラル (Ser-Od Sarantsatsral) ザグディン・ウセバイヤー (Zagdin Usehbayar)
ブルネイ (Brunei)	ザイニン・マンソール (Pg. Zainin B. Pg.Manson) マハディ・マトゼン (Mahadi B. Hj. Matzain)	ミャンマー (Myanmar)	ボボ(Po Po) ニエン・チン・スー(Nyein Chan Su) エイ・ミン(M.P.P. Yei Myint)
カンボジア (Cambodia)	王立芸術大学美術学部共同制作 (Collaboration of the Faculty of Plastic Arts, Royal University of Fine Arts)	ネパール (Nepal)	ウマ・サンカル・サー (Uma Shankar Shah) ショバ・ワグレー (Shobha Wagley)
中国 (China)	スヴァーイ・ケン (Svay Ken) フェン・メンボー(馮夢波) (Feng Mengbo) シユ・ビン(徐冰) (Xu Bing) ジャン・ペイリー(張培力) (Zhang Peili) ジュアン・ホイ(莊輝) (Zhuang Hui)	パキスタン (Pakistan)	イフティカール・ダディ(Iftikhar Dadi) ドクヒヤ・カジ・ディヴィッド・エルスワース、 イフティカール・ダディ・エリザベス・ダディの共同制作 (Joint project: Durraya Kazi,David Alesworth, Iftikhar Dadi,Elizabeth Dadi)
インド (India)	ナヴジョット・アルタフ (Navjot Altaf) シバ・チャッチャ (Sheba Chhachhi) スボド・グプタ (Subodh Gupta) ジティッシュ・カラット (Jitish Kalat) スレンドラン・ナヤル (Surendran Nair)	フィリピン (Philippines)	アルフレッド・アキリザン (Alfredo Aquilizan) アルフレッド・エスキーリョ (Alfredo D. Esquillo, Jr.)
インドネシア (Indonesia)	クリシュナ・ムルティ (Krishna Murti) チューシン・スティアディカラ (Chusin Setyadikara)	シンガポール (Singapore)	アマンダ・ヘン (Amanda Heng) タン・ダウ(Tang Dawu)
日本 (Japan)	岩井成昭 (Iwai Shigeaki) 小沢剛 (Ozawa Tsuyoshi) 田甫津子 (Taho Ritsuko)	スリランカ (Sri Lanka)	ティッサ・デ・アルウイス (Tissa de Alwis) チャンドラグプタ・テヌワラ (Chandragupta Tenuwara)
韓国 (Korea)	ブルバーズ (イ・チュンジエ) (Blupers/Rhie Joongjae) チ・ジアン (Choi Jian) イユム(Rhee Yoom) イー・チョンモク(Lee Chunmok)	台湾 (Taiwan)	チェン・シエンチュー (陳頤渠) (Chen Shunchu) リン・ミンホン (林明弘) (Michael Lin) ワン・ジンジエ (王俊傑) (Wang Junjieh) ウ・ティエンチャン (吳天章) (Wu Tienchang)
ラオス (Laos)	ドーンディ・カンタビレイ(Douangdy Khanthavilay) フォウヴァン・タマウォング(Phouvanh Thammavong)	タイ (Thailand)	モンティエン・ブンマ (Montien Boonma) マニット・シリワニチボーン (Manit Sriwanichpoom) モントリー・テオンソン・バット (Montri Teomsombat) リクリット・ララワニヤ (Rirkrit Tiravanija)
		ベトナム (Vietnam)	レ・クワン・ハ (Le Quang Ha) グエン・ミン・タン (Nguyen Minh Thanh)

交流プログラム参加作家

Artists participating in the Art Exchange Programme

アシコ・カルマカル (Ashoke Karmaker (バングラデシュ Bangladesh))	田甫津子 (Taho Ritsuko (日本 Japan))
マハディ・マトゼン (Mahadi B. Hj. Matzain (ブルネイ Brunei))	イユム (Rhee Yoom (韓国 Korea))
プロム・サン・アン (Prom Sam An (カンボジア Cambodia))	ドンティカタタリ (Douangdy Khanthavilay (ラオス Laos))
シュビン (徐冰) (Xu Bing (中国 China))	スボド・グプタ (Subodh Gupta (インド India))
スボド・グプタ (Subodh Gupta (インド India))	ザグディン・ウセバイヤー (Zagdin Usehbayar (モンゴル Mongolia))
クリシュナ・ムルティ (Krishna Murti (インドネシア Indonesia))	ボボ (Po Po (ミャンマー Myanmar))
岩井成昭 (Iwai Shigeaki (日本 Japan))	ウマ・サンカル・サー (Uma Shankar Shah (ネパール Nepal))
小沢剛 (Ozawa Tsuyoshi (日本 Japan))	ナヴジョット・アルタフ (Navjot Altaf (パキスタン Pakistan))

交通手段 Access

市営地下鉄「博多」駅から3分「中洲川端」駅下車
市営地下鉄「福岡空港」駅から9分「中洲川端」駅下車
都市高速・呉服町ランプより約5分
都市高速・千代原ランプより約7分
Subway Nakasu-Kawabata Station 3 mins from Hakata Station
9 mins from Fukuoka-Kuko Station
Urban Expressway 5 mins from Gofuku-machi Ramp
7 mins from Chiyo Ramp

福岡アジア美術館
Fukuoka Asian Art Museum

〒812-0027 福岡市博多区下川端町3-1 博多リバイン リバーサイト7・8階
TEL 092-771-8600 (ハローダイヤル)
7th, 8th Floor, River Site, Hakata Riverain, 3-1 Shimokawabata-machi,
Hakata-ku, Fukuoka 812-0027, Japan
Design/Naoki Hirai



第1回福岡トリエンナーレ The 1st Fukuoka Asian Art Triennale 1999

福岡アジア美術館開館記念展
The 5th Asian Art Show
The Commemorative Exhibition of the Inauguration of Fukuoka Asian Art Museum

コミュニケーション～希望への回路～

○ Communication : Channels for Hope

会期
平成11年3月6日[土]～6月6日[日]
Sat 6 March - Sun 6 June 1999

会場
福岡アジア美術館

〒812-0027 福岡市博多区下川端町3-1 博多リバイン リバーサイト7・8階
7th, 8th Floor, River Site, Hakata Riverain, 3-1 Shimokawabata-machi, Hakata-ku, Fukuoka 812-0027, Japan

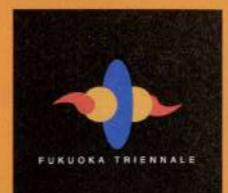
「第1回福岡アジア美術トリエンナーレ1999」(第5回アジア美術展)

開館時間 10:00 ~ 20:00 (入館は19:30まで)
休館日 水曜日(ただし、5月5日(水)は開館し、6日(木)が休館)
観覧料 一般800円(500円) 高大生500円(300円) 小中生300円(200円)
4回券(一般2,000円、高大生1,200円、小中生800円)
()内は前売、団体料金(20人以上)
シルバー、身体障害者・精神障害者保健福祉・虐待手帳所持者は前売料金

お問い合わせ 福岡アジア美術館
TEL 092-771-8600 (ハローダイヤル)

Open 10:00 - 20:00 (Last Admission 19:30)
Closed Wednesdays (Open on 5 May and closed on 6 May 1999)
Admission Tickets Adult 800 (500) yen [2,000 yen]
Student (High Schools/ Colleges)
500 (300) yen [1,200 yen]
Student (Primary/ Secondary Schools)
300 (200) yen [800 yen]
()Advance Ticket price / 14 Coupon Tickets price

For More Information Fukuoka Asian Art Museum
Tel 092 771 8600



FUKUOKA TRIENNALE

ライブでダイナミックな

3年に1度、アジアアートの祭典、いよいよ開幕！

「第1回福岡トリエンナーレ」

平成11年3月6日、福岡市博多区下川端の博多リバーライン(リバーサイト7・8階)に福岡アジア美術館が創設されます。この誕生を記念した開館記念特別展が「第1回福岡トリエンナーレ」です。これは、過去4回福岡市美術館で5年ごとに開催されてきた「アジア美術展」を受け継ぎ、福岡アジア美術館の開館を契機に3年ごとに開催することとし、展覧会名も3年に1度という意味の「トリエンナーレ」に変更し、再出発するものです。

参加国・地域も前回(第4回アジア美術展)の18カ国にブータン、カンボジア、台湾を加え、21カ国・地域となり、55人の作家による絵画、彫刻、インスタレーションなど様々な作品が出品されます。さらに、通常の作品展示に加えて、より多くの人々にアジアの美術・文化を感じてもらうため、会期中、参加各國・地域から作家を福岡に招き、美術館内だけでなく、広く館外でも公開制作、ワークショップ、パフォーマンス、ギャラリートークなどの多彩な美術交流プログラムを行います。

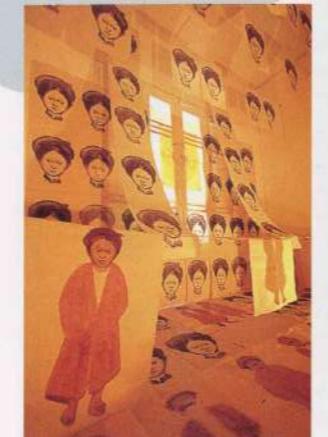


シュ・ビン(徐冰) <中国> 「お名前は?」
Xu Bing <China> Your Surname, Please?

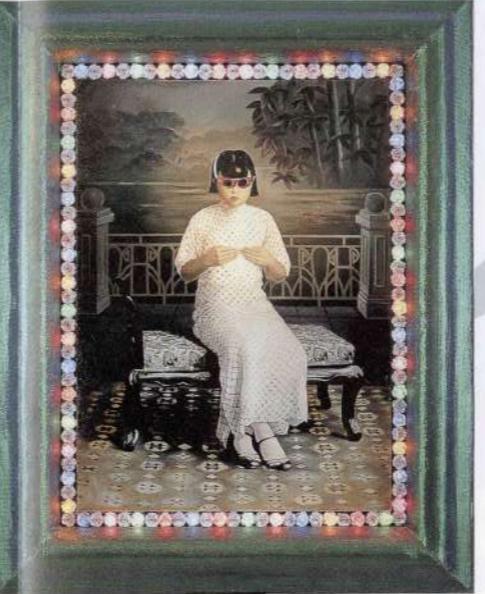


ドーンディ・カンタビレイ <ラオス>
「シンセイ」
Douangdy Khanthavilay <Laos>
Xinxay

アルフレド・エスキリョ <フィリピン>
「キアボ教会評議員たちの解剖」
Alfredo D. Esquillo, Jr. <Philippines>
Quiaponian Dissection I



グエン・ミン・タン <ベトナム> 「大晦日の夜」
Nguyen Minh Thanh <Vietnam> Watch Night



ウ・ティエンチャン(吳 天章) <台湾> 「春宵夢IV」
Wu Tienchang <Taiwan> Dreams of Past Era IV



ドゥリヤ・カジ<パキスタン> 「アート・キャラバン」
Durraya Kazzi <Pakistan> Art Caravan



イユム <韓国> 「超能力者」
Yum <Korea> The Psychic



スレンドラン・ナヤル <インド> 「死刑宣告」
Surendran Nair <India> Auto Da Fe

あなたとだれか、だれかとあなたをつなぐアート テーマは「コミュニケーション～希望への回路」

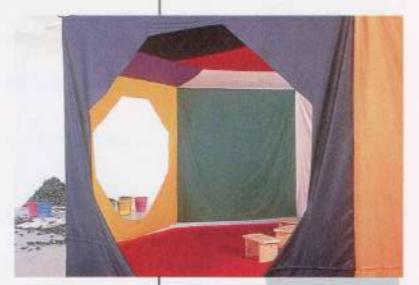
異なる文化、宗教、人種が複雑に絡まり合う社会の中で、それぞれの価値観、考え方を持ち生きる人々。しかし、人々はそこにお互いを理解し、つなぐための有効な手段は見つけられない。こうした混沌とした「いま」を生きている人と人とをつなぎ、創造的なコミュニケーションのための回路を切り開く。お互いが相手を理解、共感し、共に生きることへの希望を抱く。

「第1回福岡トリエンナーレ」では、このような人と人とをつなぎ、独自のコミュニケーション手段となる広い意味での造形表現こそ、アジアの「いま」を生きる「現代美術」であると考え、【参加・交流】【共同体】【都市】【メディア】という4つのキーワードで、選んだ作家・作品が参加・出品されます。ただし、それだけでは本展は完成しません。作品を並べ、作家を招くだけでは、まだ足りません。そこにあなたが参加し、だれかと出会い、新しい何かを生み出すことがこの展覧会の本当のねらいであり、そうしてこそ「第1回福岡トリエンナーレ」の完成となるのです。

ひとことで言うと、超・交流型 福岡アジア美術館

作品を収集する、作品を展示する、こうした通常の美術館活動に加えて、福岡アジア美術館では、アジア各国からアーティストを招き、公開制作やワークショップ、ギャラリートークなど、市民交流のための様々なプログラムを実施します。活動範囲も美術館の中にとどまらず、街に飛び出し、たくさんの人を巻き込んでいきたいと思っています。もしかすると、あなたのまわりに作品が展示されるかもしれません。

こうした市民交流は「第1回福岡トリエンナーレ」ではもちろん、トリエンナーレ終了後も活動の大きな柱となります。たとえば、9月から来年2月までの6ヵ月間、シンガポールからアーティストを招き、福岡に滞在してもらい、市民とアーティストとの、より腰を据え、深く練られた交流プログラムを行う予定です。ご期待ください。きっと、アジアのアーティストがあなたに語りかける声が聞こえてくるはずです。



リクリット・ティラヴァニヤ <タイ> 「無題」
Rirkrit Tiravanija <Thailand> Untitled



アマンダ・ヘン <シンガポール> 「もうひとりの女」
Amanda Heng <Singapore> Another Woman